

| 学校教育目標 | | 意欲的に学び、共に伸びあう、心豊かな子供の育成 | | 重点目標 | よく考え、失敗からの学びを活かす子供の育成 | | | |
|--------|--|--|--|--------------|---|---------|---|--|
| 評価計画 | | | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | 改善計画 | |
| 重点目標 | 目標達成のための方策 (取組指標) | 成果指標 | 評価 | 結果 (成果○と課題△) | | コメント | 次年度における改善策 | |
| | | | | 評価 | 結果 (成果○と課題△) | | | |
| 重点目標 | 【学力アップ部】 学力向上に向けた学び方の定着 | ①読み取ったことを要約したり自分の考えを表したりするための表現物 (数直線や図、イメージマップ、関係図など) を意図的に取り上げて、それを使って説明させる。 | ①自分の考えを書いたり、根拠をもとに発表したりすることができる子供 80% | 3 | ○学習の終末に自分でまとめや振り返りを書く習慣は身につけてきて、低学年も自分で考えて書くことができるようになってきた。 △算数では適用問題に入る前に、友達の考えを聞いたことで分かったことや付け加えることなどを整理する時間を取ったが、見直して整理できるまでには至っていない。 △図や言葉で説明をするためにノートに書いているが、図や式、考えを関連づけてそれを使って説明することにもう少し慣れる必要がある。 ○「大切にしたい学び方」に加え、姿勢や挙手、聞き方などの学習規律が身につけてきた。 | A | ・学校の評価は適切である。 ・読み取りや自分の考えを作ることは、くり返し実行していくことが必要である。 ・結果のみ書く傾向があるので、考えを書くことで、計算などミスも少なくなると思う。 ・学力向上コーディネーターが学級で取り組んでいることが、学校全体へ広がっているとわかり、三部会の学力アップ部が機能していることがわかった。 ・子供達が主体的に学び合う楽しさが感じられるように授業の工夫がなされている。 | ・三部会の学力アップ部を中心に、交流した後に自分の考えをもう一度整理する時間を具体的に展開の中で位置づけるよう提案する。 ・友達に考えを説明させる際に、図や式、言葉を関連付けて説明できるようにする。 ・算数だけではなく、読み取る力を付けるためにも国語や帯の時間で読解力を付ける問題に挑戦させる。 ・まとめや振り返りは、自分の言葉で書けるようになってきているので継続して取り組む。 ・授業のモデルを見て学ぶ時間を設定する。 |
| | | ②友達の考え、自分の間違いを活かすために赤で書き直したり、付け加えたりする活動の時間を確保する。 | ②友達の発表を聞いて自分の考えを見直しノートに整理できる子供 75% | 3 | | | | |
| | | ③算数マップや思考の流れが見えるような構造的な板書とノート指導を関連させる | ③学習の終末に、自分の言葉でまとめができる子供 90% | 4 | | | | |
| | | ④「大切にしたい学び方」による学習規律の徹底。 | ④「大切にしたい学び方」各項目の達成度 90%以上 (教師の見取り) | 4 | | | | |
| 評価 | 【豊かな心部】 ・凡事徹底 ・価値の理解 (頭)、身に付いた喜び (実感) から自尊感情を高める | ⑤いつでもどこでもだれにでもあいさつ、靴のかかとそろえ、黙々掃除の徹底を行い、粘り強く取り組むことで目標を達成できることを実感させ、自信をもたせる。 | ⑤あいさつ、靴のかかとそろえ、黙々掃除ができていく児童 80%以上 (教師の見取り) | 4 | ○豊かな心部の段階的な取組により、あいさつが自然にできるようになり、来客された方から、温かい挨拶ができていくと誉められるようになってきた。 ○行事等、制約を受けることが多かったが、キャリアパスポートを活用し具体的な目標を設定させ、必ず振り返りを行わせたことで、取組の達成感を実感させることができた。 | A | ・学校の評価は適切である。 ・外部の方からほめていただいたことは子供達にとって意欲の向上につながると思う。 ・見守り隊で見ているあいさつが自然とできていくのを最近特に実感している。 ・あいさつは他者理解や他者との交流にも大切なので来年度も継続して取り組んで欲しい。 | ・自然なあいさつができるよう、レベルアップチャレンジに取り組んだところ温かいあいさつができるようになってきたので来年度もやり方を工夫して取り組んでいく。 ・あいさつだけではなく、黙々掃除などでも粘り強く取り組ませるための工夫を考える。 ・活動時の目標設定や価値付けを継続して行っていく。 |
| | | ⑥活動時に目標の設定を必ず行い、子供の頑張りを褒め、努力している過程を賞賛する。 | ⑥キャリアパスポートに目標を設定している子供 90% | 4 | | | | |
| 評価 | 【体力アップ部】 楽しみながら体を動かす習慣をつける | ⑦実行委員を中心に、朝の体力作りの活動を行う。 | ⑦朝の体力づくりに参加する児童 85%以上 | 4 | ○ドッチボールをレベル別にしたり縄跳びを異学年で教え合ったりしたことで、苦手意識のある子も楽しんで体力づくりを行うことができた。 ○苦手な子が多い器械運動でもタブレットを活用することで、動きのコツをつかみ、挑戦する子が増えた。 | A | ・学校の評価は適切である。 ・レベル別ドッジボールなど異学年ならではの相互作用を生かした取り組みになっているので、学校生活の中で縦の関わりを学ぶ機会を継続して取り組んでいきたい。 | ・朝の体力づくりがコロナの感染防止のため十分に取り組むことが難しいが、来年度も体力アップ部を中心に取り組みを工夫し、参加する児童の増加を目指す。 ・タブレットを活用し、運動を楽しむことができる授業を行う。 |
| | | ⑧体育の学習のねらいを明確にし、運動の楽しさを味わえる授業を行う。 | ⑧運動が嫌いな子 10%以下 | 4 | | | | |
| 評価 | 【特色ある教育活動】 お互いを認め合う態度を育てる | ⑨児童会を機能させ、あいさつ運動や縦割りの活動と「ぼかぼかレインボー」「3・9の日」の取組を関連させ、異学年の関わりをもたせる。 | ⑨異学年の友達のいいところを見つけている子供 80% | 4 | ○朝の体力づくりや英語でチャレンジ集会など異学年と関わる機会をつくったことでよさに目を向け「ぼかぼかレインボー」のコメントも増えた。 ○英語でのコミュニケーションが楽しいと答えた子供が90%となり、殆どの子が意欲的に取り組めた。 | A | ・学校の評価は適切である。 ・苦手意識をもちがちな英語学習だと思いが子供達が楽しく学べているということが何よりで、子供達が成長していく中で視野を広げていく土台作りになっていると感じる。 | ・異学年との交流が難しいが、「ぼかぼかレインボー」のコメントを放送で発表するなどの取り組みを継続し、いいところを見つけられる児童の増加を目指す。 ・英語学習で身に付けたコミュニケーション力を他の学習でも生かす。 |
| | | ⑩英語活動・外国語活動・外国語科で文字に慣れ親しみ、コミュニケーションを楽しむ活動の工夫を行う。 | ⑩英語の文字に慣れ親しむ子供 70% 英語でのコミュニケーションの楽しさを味わっている子供 85%以上 | 4 | | | | |
| いじめ防止 | いじめの未然防止に努め、いじめを生まない | ・学校生活アンケートおよび面談、無記名アンケートの確実な実施 ・全職員による児童理解会議の定例化 ・いじめ防止対策委員会等における組織的ないじめの早期発見、早期対応 | ・認知したいじめの解消率が 100% | 4 | ○アンケートや児童理解会議等を通して、実態を把握すると共に、細かいことでも気になることや指導していることを全体で共通理解し、組織的に指導にあたることができた。 | A | ・学校の評価は適切である。 ・いじめ・不登校に関して、学校が組織的に取り組んでいるので、継続して対応してほしい。 | ・気になることや認知したことについて、生徒指導委員会で共通理解すると共に迅速、組織的に対応していく。 |
| 不登校防止 | 不登校児童の学校復帰と未然防止 | ・不登校傾向児童に関する情報の共有 ・予防・解消を目指す組織的な取組 (マンツーマン対応) ・スクールカウンセラー、訪問指導員等との連携した取組 | ・病気、家事都合以外の不登校傾向の児童数が昨年度の総数を下回る。 ・SC、SSWと協力し、休みがちな子、遅刻しがちな子をサポートする「未然防止対策会議」の実施 (月1回) | 3 4 | △不登校兆候・不登校の児童に対してSC、SSW、訪問指導員、児童家庭相談所等と連絡を密にし、サポートを行うようにしたため、不登校兆候の児童については、改善が見られたが、総数は減っていない。 | A A | ・学校の評価は適切である。 ・学校は、組織的に子供と家庭に関わっていると言える。今後も関係機関と連携・協働をお願いしたい。 | ・子供の気持ちに寄り添い、保護者と連携を強化して指導にあたる。 ・不登校兆候、不登校の児童についてSC、SSW等と連絡を密にして引き続き連携を図る。 |
| 働き方改革 | 意識改革と業務改善 | ・学校閉庁時刻 (20時) での退校 ・各主任による計画的 (事前) 提案と共通理解する時間の確保をして効率的に会議を行う。 | ・退校した職員 90%以上 ・計画的提案の実施率 90%以上 ・ペーパーレス会議の実施 (毎回) | 4 3 | ○年間を通して20時以降まで残っている職員は、昨年度に比べて随分と少なくなり、時期にもよるが、意識の改善が見られた。 △会議資料をペーパーレスにすることはできているが、共通理解する事項が増え、会議や研修の回数が増えた。 | A A | ・学校の評価は適切である。 ・働き方改革は、時間だけではなく、内容も検討する必要がある。結果的に持ち帰っての仕事が増えているのではないと思う。 ・会議の終了時刻を提示するのもよいと思う。 | ・職員に見通しをもって計画的に業務を遂行してもらうために、先を見通して早めの提案と助言を引き続き行う。 ・効率的に職員会議を行うために引き続きペーパーレスで会議を行い会議終了時刻を提示する。 |

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4: 目標達成 (90%以上) 3: ほぼ達成 (70%~90%) 2: もう少し (60%~70%) 1: できていない (60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A: 自己評価は適切である B: 自己評価は上方修正すべきである C: 自己評価は下方修正すべきである